令和2年度　町政執行方針

向山富夫 町長

国においては景気は緩やかな回復傾向としていますが、消費税率の引き上げや新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による経済的影響が懸念され、先行き不安な状況にあります。

町においては全収入の4分の3が依存財源で占められており、柔軟性に乏しい財政構造です。今後は町立病院の改築など大きな公共投資も予定されていますが、活力あるまちづくりと自治体経営の安定化との両立を図ってまいります。

さまざまな課題が山積する中、町民の皆さまが「かみふらの」に愛着を持ち、夢と希望に満ちたまちづくりを進めていくことが大切と受け止め、第6次上富良野町総合計画に基づき「誰もが安心して住み続けられるまちづくり」を念頭に、事業実施における緊急性や優先性を十分に考慮し、予算編成を行いました。

きれいで安全・安心な生活環境のまち

クリーンセンターは供用開始から20年が経過しており、長寿命化計画に基づいた焼却炉の補修工事を実施し、安定した施設運営を行います。

島津公園については、憩いの場としての公園づくりと安全確保のため、池周囲の安全柵改修を実施します。

各種災害への対策では、保健福祉総合センターかみんの自家発電設備の改修をはじめ、防災備蓄品・資機材の計画的な整備を行い、災害に強いまちをめざします。

みんなが元気になる健康・福祉のまち

生活習慣病やサルコペニア（筋肉量減少）の重症化予防などの保健指導のほか、新型ウイルスなどの感染拡大対策では、国や北海道との連携により情報収集・提供に努めます。

町立病院については、今後見込まれる慢性期の医療・介護ニーズに応えるため、介護療養型老人保健施設から介護医療院への転換を図るほか、老朽化に伴う施設の改築に向けて十分な検討・調整のもと基本構想と基本計画の策定に着手します。

子育て支援では、子育て支援サービスに関する情報提供を図りながら、児童虐待などさまざまな相談に対応し、適切な支援につなげるほか、積極的な関与が必要な家庭には「養育支援家庭訪問援助事業」を実施します。

高齢者や障がい者の困りごとへの支援としては、社会福祉協議会と連携し、生活支援コーディネーターの配置による相談窓口の一本化などの体制整備のほか、新たに権利擁護センターを開設し、成年後見制度の普及啓発など地域ケアの充実を図ります。

活力と交流あふれる産業のまち

農林業では、多様な人材の就農支援のほか、生産性の向上を図るため、東中・島津地区の基盤整備事業を進めます。森林整備では、森林環境譲与税を活用した民有林に関する調査を実施し、必要な整備を行います。

商工業では、地域経済の活性化と経営の安定化を図るため、キャッシュレス化の推進、地域カード導入に向けた取り組みを支援します。

観光・交流では、ロケツーリズムを推進し、観光客の誘致拡大に取り組むほか、新たな魅力づくりとして、小説「泥流地帯」の映画化に向けた、機運醸成活動やロケ支援の体制づくりに取り組むとともに、産業振興、にぎわい、交流の拠点となる複合的機能拠点施設の基本設計に着手します。十勝岳ジオパーク構想では、新たに専門員を任用し、令和3年度の日本ジオパークネットワーク正規会員認定をめざします。

発展を支える生活基盤が整ったまち

ＪＲ富良野線の維持・存続については、沿線5市町とともに、存続に向けた意識の醸成と利用促進を図ります。

観光客へのサービス向上など町の情報発信の強化に向け、公衆無線ＬＡＮアクセスポイントの増設など情報通信環境の向上を図ります。

移住促進では、民間賃貸住宅を活用した、中・長期滞在向けシーズンステイ住宅の提供を開始するほか、町内在住者が生涯にわたり、地域で安定的に豊かな生活を継続できる取り組みを進めます。

ともに生き、ともにつくるまち

地域コミュニティが果たす役割が重要なことから、地域団体の自主的な活動を支援するとともに、自治基本条例と協働のまちづくり基本指針に基づき、まちづくりに参画する機会を充実します。

自衛隊との共生については、上富良野駐屯地の現状規模堅持、さらなる拡充に向けて要望活動を進めます。

ふるさと応援モニター事業については、地域の特産品のＰＲとともに、地域活性化財源として確保するほか、企業版ふるさと納税の活用により、企業が取り組む地域貢献活動と一体となったまちづくりを進めます。

令和2年度予算の内容は、別冊「知っておきたいことしのしごと」をご覧ください

令和2年度　教育行政執行方針

服部久和 教育長

私たちの生活において、スマートフォンなど通信機器を使用した情報収集や金銭の決済、コミュニケーションが当たり前の社会となりました。近い将来には、仮想空間と現実空間がさらに融合した「ソサエティ5.0」と言われる超スマート社会が目前に迫っていると言われています。

文部科学省では、ＡＩ（人工知能）技術の進展に対応した、新たな学校の姿や学びのあり方の変革に向け、学習指導要領を改訂しています。

このように社会や教育が激しく変容する中、教育委員会では「上富良野町教育振興基本計画」「上富良野町教育大綱」の教育理念「ふるさとに学び　人が輝き　人がつながるかみふらのの教育」の実現をめざし教育行政の推進に努めます。

学校教育の推進

学校教育では「生きる力を培う学びの推進」「家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進」「安心して学び、安全に過ごす教育環境整備の推進」を重点に施策を進めていきます。

小学校では今年度、新学習指導要領が完全実施となり、新たな学びのあり方や地域との連携を踏まえた教育課程の編成・実施に対し、教育活動のより一層の質的向上につながる指導助言や情報提供を計画的に進めます。小1プロブレムへの未然防止の取り組みとして「上富良野のびのびプラン」を昨年度策定。認定こども園と小学校が連携し、子ども・教職員同士が交流しながら、授業体験や情報交換などプランに沿った事業を展開します。

教育制度の変革に合わせて、教職員の働き方の見直しが求められている中「学校における働き方改革　上富良野町業務改善計画」の着実な実践に合わせ、新たに導入した「校務支援システム」を有効に活用し、教職員の業務の効率化を図り、健康で能力が発揮できる職場づくりを進めます。

ＩＣＴ（情報通信技術）教育の充実に向けては、プログラミング教育の研究やデジタル教科書の効果的な活用について協議するため、新たに「ＩＣＴ教育推進委員会」を設置。ネット環境を拡充するＧＩＧＡスクール構想では、児童生徒1人1台の学習用ＰＣ端末を整備し、国の制度を活用してＩＣＴ教育の環境整備を進めます。

上富良野小学校には引き続き学習支援員を配置し、就学後の児童への細やかな支援と学習規律の早期定着を図るとともに、家庭学習の機会充実に向け、eラーニングシステムを導入します。

開校120周年を迎える東中小学校においては、地域と学校が一体となった教育活動を支援し、特色ある学校づくり、少人数指導によるきめ細やかな指導など、特認校として魅力ある学校づくりを進めます。

東中小学校に整備された学習用 PC

社会教育の推進

各種事業と社会教育施設などを活用する中で、町民一人ひとりに生涯にわたって自主的に学ぶ機会を提供し、町社会教育基本方針と第9次社会教育中期計画に基づき、家庭・学校・地域社会それぞれが持つ教育機能の充実と連携・融合を進めます。

家庭と地域の教育力向上では、子どもたちの人格形成に必要な「基本的生活習慣」と「調和のとれた心身」を育むことが教育の原点であることから「早ね・早おき・朝ごはん運動」や「生活リズムチェックシート」を活用し、食事や睡眠などの大切さの理解を深めるとともに、家庭教育学級などの学習機会や情報提供に努めます。

生涯学習活動の推進では、海外でのホームステイなどの生活文化体験や語学研修を行い、グローバル化や価値観の多様化に対応していく人材を育成するため、中学生・高校生を対象とした海外派遣事業を進めます。

社会教育の基盤整備では、富原運動公園テニスコートの改修、公民館江幌分館の屋根・外壁の塗装などを行い、多くの方が安全で安心して利用できる環境づくりに努めます。

改修予定の富原運動公園テニスコート

ここに掲載しているのは抜粋です。全文は町の行政ホームページでご覧ください。